

8-6-5 CPD 監査専門委員会

1. CPD 監査専門委員会の活動状況

CPD 監査専門委員会は、2011 年度より CPD 会員から無作為に一定人数（被監査者）を抽出し、その会員の登録記録の監査を実施している。今年度は、新システムに改定後 3 年目の監査であり、2017 年度登録記録（総記録数 2,455 記録 / 200 名分）を対象として監査を実施した。

2. 監査の実施

(1) 監査員による監査

監査は「CPD 監査マニュアル(第 4 版 2018.6)」に従い、監査員が被監査者個々の登録記録を精査した。登録記録が適当でなければ、その内容により「削除相当」、「修正相当」および「助言相当」の 3 つのレベルで指摘を行い、「CPD 監査個人別チェックリスト」として整理した。

(2) CPD 監査専門委員会による審査・とりまとめ

監査専門委員会は、監査員による指摘内容の照査を行い、指摘された「削除相当」、「修正相当」および「助言相当」の適否について審議し、監査結果としてとりまとめた。

3. 監査結果

(1) CPD 記録の状況

今回実施した 200 名の被監査者が取得している CPD 記録の年平均単位数 43.6 時間 / 年であった。教育分野別・形態別の傾向を図-1, 2 に示す。教育分野別では専門技術分野が 84% を占めており、昨年度の 77% より大きくなった。教育形態別では、講習会等への参加が 32% で最も多く、業務経験が昨年度と比べて 6% 増加したが、総じて昨年度と変化はなかった。

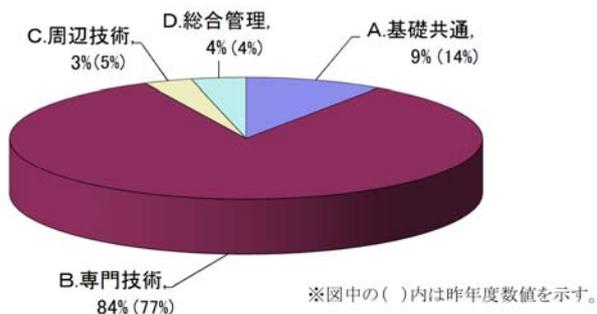
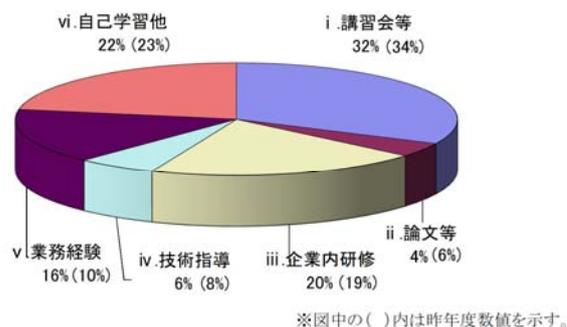


図-1 教育分野別傾向



※図中の()内は昨年度数値を示す。

図-2 教育形態別傾向

(2) 監査結果

総指摘数（「削除相当」、「修正相当」および「助言相当」の合計）は 208 あり、これは総記録数の 9.9% で、昨年度の同比率 9.4% とほぼ同等であった。また、「削除相当」、「修正相当」の総記録数に占める割合は、それぞれ 0.6%、2.8%、であり、「修正相当」が昨年度の 3.6% から減少している。これは、新システムの導入より 3 年が経過し、エビデンスの不備による「修正相当」が大幅に減少したためと考える。

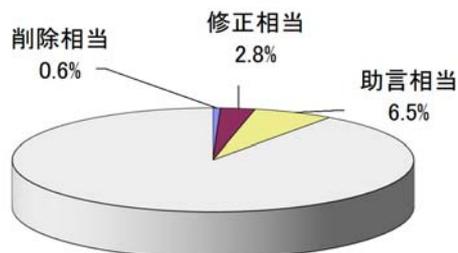


図-3 総合判定状況

よって、CPD システムは適切に運用されていると判断される。

4. 監査結果と今後の課題

今年度監査においても、新システムの導入により、CPD 取得単位数が過大となる場合の指摘記録数の大幅な抑制が確認できた。さらに、システム導入後の不慣れが解消されてきて、昨年度監査より指摘記録数が減少している。

今後とも、指摘記録の抑制効果の維持が必要であり、建コン協のホームページ及び CPD システムの中で公開・周知し、登録者への注意喚起を図るものとする。

(CPD 監査専門委員会委員長 巴 尚志)